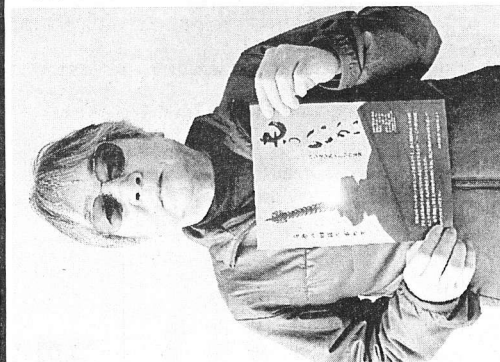


# 神戸

ハンセン病の隔離政策の問題を描いたドキュメンタリー映画「もういいかい〜ハンセン病と三つの法律」が14日から、神戸市中央区の元町映画館で上映される。関西での劇場上映は初めて。プロデューサーの鵜久森典妙さん(65)＝西宮市＝は「差別や偏見の歴史があり、病気が治っても家に帰れない人たちがいる。映画を見て負の歴史を知ってもらいたい」と話している。【棕田佳代】

ハンセン病は感染力の弱い病気が、体に変形が残ることなどから患者や家族は厳しい差別にさらされた。国は1907年に法律を定め、患者を療養所に収容する強制隔離を開始。戦後、特效薬が使われるようになってからも隔離政策は見直されず、96年に「らい予防法」が廃止されるまで約90年間続いた。

鵜久森さんは、2007年ごろから映画の構想を練り始め、岡山県瀬戸内市の長島愛生



映画を製作したプロデューサーの鵜久森典妙さん  
神戸市中央区横通2号

## ハンセン病負の歴史知って 隔離政策問題 患者ら映画で証言

体験を語る回復者の男性  
―◎「もういいかい」映画製作委員会提供



### 神戸できもつから上映

園など国内外の療養所を訪ねて撮影した。入所者や医師ら22人取材し、撮影時間は約60時間に及んだ。

映画では、名前を奪って存続した三つの法律の委遷を回復者の証言などから追い、療養所内で結婚した女性が墮胎を強いられた様子を語った場面などが収められている。昨年3月に公開し、各地で上映会を重ねてきた。

国内に13カ所ある国立療養所の入所者は、今年5月現在で1979人。平均年齢は80歳を超える。映画に登場する回復者の3人は撮影後に亡くなった。鵜

久森さんは「証言できる人が減ってきている」と懸念する。タイトルは死んで遺骨になっても故郷に帰れないつらさを詠んだ亡くなった入所者の句「もういいかい 骨になっても まあただよみから取った。鵜久森さんは「瘡気は誰でもなる。国の政策で隔離されてきた歴史を考えてほしい」と話している。上映は午前10時から1日1回。2時間23分。14日の終映後には監督の舞台あいさつがある。問い合わせは元町映画館(078・366・2636)へ。